

サジアトーレ同人会 (<http://saggiatore.org>) 編集部と著者の許諾を得て、同人誌『IL SAGGIATORE』40号 (2013年5月発行) 所収の菊地重秋氏の論文「我が国における重大な研究不正の傾向・特徴を探る」(PDF版)を参考資料として掲載します (2013年9月)。

我が国における重大な研究不正の傾向・特徴を探る

—研究倫理促進のために—

菊地 重秋

はじめに

日本学術会議は2003年頃から研究倫理に関する取り組みを強めてきている。同会議は最近では、学術フォーラム「『責任ある研究活動』の実現に向けて」を開催した(2013年2月19日)。この学術フォーラムの基調報告・事例発表のうちでは、市川家國氏の講演「研究者育成の為の行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開(CITI Japanプロジェクト)について」が特に興味深かった。同フォーラムの会場発言では、東北大学の第20代総長の研究不正疑惑(文献64)に関するものが印象に残った。大学総長の研究不正疑惑を学内で適切に調査することは困難であろうから、公的な調査機関が必要である。日本学術会議がかつてその必要性を指摘したにもかかわらず、我が国では、米国の研究公正局(ORI)のような機関が設立されそうにない点は残念である。

2012年登場の「CITI Japanプロジェクト」は、2012年11月14日の読売新聞記事(ウェブ版)「論文捏造防げ、倫理学ばせるプロジェクト」や、同プロジェクトのHP掲載の対談を読む限りでは、期待できそうである。同プロジェクトは、まず、(米国での成果を取り込む関係で)医学分野から出発するが、対応する専門分野を拡大する予定である。研究倫理の標準化と教育の面で、重要な役割を果たすと期待される。(同プロジェクトは5年間の「大学間連携共同教育推進事業」(文部科学省)として採択されている。)

2012年末に政府は、科研費など公的研究費を受給している研究者に研究費不正・研究不正(捏造など)が絶えないことから、2013年度から罰則を強化することにした。新たな罰則とし

て、もし共同研究で不正があれば、不正に直接関わっていなくても、上司・研究管理者も責任を問われるという(文献63)。

最近のもう一つの注目すべき点は、福島第一原発事故以来、原子力分野における利益相反問題に関心が集まってきていることである。利益相反問題は、どの研究分野でも発生しうるのであり、従来は医学・薬学の分野で特に注目されてきた。福島第一原発事故がきっかけで原子力分野でも注目が集まり、新聞記事も増加している。そのため筆者も取り上げる予定である。

さて、筆者は拙稿(文献1~4、以下「概観(その1)」等と略記)で、研究倫理や不正予防を考えるさいの参考資料として供する目的で、新聞記事等を整理することによって、研究不正の概観を示してきた。本稿では、概観(その1~4)で指摘した「重大な研究不正」の事例に、手許にある記事等に基づいて同様の事例を追加し、どのような傾向・特徴が見出せるか検討したい。その結果、研究不正の未然防止・研究倫理の促進に有用な指針が得られれば幸いである。

重大な研究不正のリスト(表1)について

本稿の「表1: 重大な研究不正(捏造・偽造・盗用)の事例リスト」には98事例が掲載されている(文献65)。事例20と20*は、同じ時期に同じ研究者の研究が異なる所属機関で問題になった事例で、表記の都合で分けている。

表1では、明確に「研究不正なし(シロ認定)」とされた事例は含まれていないが、懲戒処分・論文撤回・特許申請取り下げ等があった場合は「不正(クロ認定)」の事例、それ以外は「未

決着（グレー認定）」の事例と考えて掲載している。

表1では例えば人数や年齢などが不明な事例があるので、表1から得られる以下の表の数値は概数である。

表 1 から得られた 10 個の表と考察

表2は、98事例について、どのような研究不正が認定されたか（疑われているか）示している。一つの事例で2種類の不正が数えられている場合が8件あるので、延べ件数は106件である。

表 2：研究不正の種類と事例件数

研究不正の種類	件数（件）	割合（％）
捏造	27	27.6
偽造（改竄）	11	11.2
盗用（剽窃）	58	59.2
その他	10	10.2
合計〔延べ〕	98件[106]	100%

表2では盗用が6割もあって興味深い。いわゆる「コピペ」（コピーして貼り付ける）が今日では一段と容易になっているため、盗用を誘発していると思われる。既に論文として発行されていれば、「ハズレ」ではないから、利用したくなるだろう。しかし逆に、盗用の被害者からすれば、気づきやすいはずである。

次の表3は主犯格の職位などの数と割合を求めたものである。共同正犯のような事例もあるため、件数98より10多い108人である。

表 3：研究不正の主犯格の職位と人数

職位など	人数（人）	割合（％）
名誉教授	1	0.9
教授（客員等を含む）	37	34.3
助教授、准教授	19	17.6
講師（専任講師）	6	5.6
助手、助教	9	8.3

研究員（各種）	7	6.5
大学院生、学部生	14	13.0
不明・その他	15	13.9
合計	108人	100%

白楽氏（文献5）は、米国では地位が高い研究者ほど不正をしないが、対照的に、日本では地位が高いほど不正をする、と指摘している。表3でも同様の傾向が見られ、たいへん懸念される。教授（メンター、指導者）が手本となって研究室の伝統・雰囲気を作り、その中で弟子（トレイニー、大学院生等）が育つからである。

主犯格が大学院生等の場合、指導教授が指導・監督（メンタリング）責任を問われて懲戒処分を受けることが多い。しかし表4では、主犯格の量刑に注目して整理している。例えば学位取り消しと懲戒解雇が重複するような事例が4件あるため、合計は4人増えて112人である。

表 4：研究不正に対する量刑

懲戒処分等の量刑	人数（人）	割合（％）
懲戒解雇（相当）	20	17.9
諭旨解雇（相当）	6	5.4
自主退職	9	8.0
停職・出勤停止等	14	12.5
戒告	4	3.6
厳重注意	5	4.5
除名（学会等）	1	0.9
学位の取り消し	10	8.9
調査中	6	5.4
処分検討・不明・他	28	25.0
無処分	9	8.0
合計（重複4人）	112人	100%
論文撤回・著作回収等	62事例（以上）	

量刑にバラツキがあることは白楽氏も指摘している。筆者も再確認した。標準的量刑を公的に定める時期が来ていると思われる。

研究者の生産物である論文などが、重大な研究不正などのため、価値を否定されて撤回（回収・再発行、絶版など）された事例の件数は62である。しかし、報道されなくても、クロ認定の場合は大部分が撤回されている、と思われる。

次の表5は、不正が発覚した（最初に報道された）頃の主犯格の年齢分布を示している。ここでは、年齢が不明の大学院生・学部生は暫定的に20代に振り分けている。

表5で、108人のうち年齢が不明な24人を除いた84人の平均年齢を求めると47.7歳（約48歳）である。研究不正発覚（疑惑告発）までの平均年数（後掲）は約6年なので、平均的には42歳頃が危ないと思われる。

表 5：不正行為者の年齢の分布

年齢	件数（人）	割合（％）
20代	10	9.3
30代	14	13.0
40代	22	20.4
50代	21	19.4
60代	15	14.9
70代	2	1.9
不明	24	22.2
合計	108人	100%
平均年齢	47.7歳	

若手の研究不正は、マスコミも注目しておらず、大学など機関側も「将来があるから」と保護する傾向があるため、報道記事は少なくなりがちであろう。とは言え、上の表の分布が平坦であることから、研究倫理の促進は研究者全体（全年齢層）の課題であると理解される。

次の表6は、どのような専門分野に何件かという分布を示している。専門分野が分かりにくい場合もあるので概観である。

表 6：専門分野別の研究不正の分布

専門分野	件数（件）	割合（％）
------	-------	-------

医学系（医歯薬学）	30	30.6
理工学系	18	18.4
人文・社会科学系	39	39.8
教育学系	6	6.1
農学	1	1.0
その他（不明3含む）	4	4.1
合計	98件	100%
バイオ系	36件	36.7%

専門分野別の（重大な）研究不正の分布について白楽氏は、バイオ系が多い、バイオ系の中では医学系が多い、と指摘している。また、研究者が起こす事件全般と同様に、重大な研究不正についても、「教授、55歳以上、バイオ系・医学系」が多いので、当てはまる場合は要注意である、と指摘している。

重大な研究不正は、白楽氏の指摘と同様に本稿でも、医学系でかなり多いし、バイオ系も目立っている。しかしながら本稿では、それらと同程度（以上）に「人文・社会科学系も多い」ことが改めて示された。この違いの理由は今後の検討課題としたい。

次の表7は、ある事例の報道記事が初めて出た年と事例件数を示している。増加傾向が見て取れるが、発覚率の変化は未検討である。

表 7：不正発覚（不正疑惑告発）の報道年

報道された年	件数（件）	割合（％）
1999年まで	1	1.0
2000年	2	2.0
2001年	2	2.0
2002年	3	3.1
2003年	4	4.1
2004年	6	6.1
2005年	3	3.1
2006年	9	9.2
2007年	12	12.2
2008年	10	10.2
2009年	11	11.2

2010年	6	6.1
2011年	11	11.2
2012年	17	17.3
2013年（1～3月）	1	1.0
合計	98件	100%

セクハラと同様に、報道が増えれば増えるほど機関の対応が進むはずだが、結果として、慣習はなかなか変えられず、疑惑告発（不正発覚）が増えると思われる。また、表 7 から見て、不正告発への留め金（裏切り意識・抵抗感など）は 2006 年頃までに外れたと思われる。

平均寿命 5.9 年・半数発覚時間 4 年

次の表 8 は、論文等が印刷・発行されてから疑惑の指摘などにより研究不正が発覚するまでの年数を示している。この表では、件数が 0 のところは省略している。

発覚までの年数が 2 番目に長かったのは、東北旧石器文化研究所の副理事長が石器などを捏造した表 1 の事例 3 で、発覚までの年数は 26 年である。この事例 3 が全国的に注目されて連日のように報道された結果、研究分野が同じ事例 4 に改めて関心が集まって調査されることになり、最初の発掘調査から 39 年も経って一定の決着を見た。このような寿命が極端に長い事例では、何らかの特殊事情が働いているように見えるが、それは今後の検討課題である。

合計 98 件のうち不明 3 件を除いた 95 件の平均、いわば平均寿命は 5.9 年である。満 6 年までに発覚するのは 63 件（66.3%）である。

95 件の半分は 47.5 件であるが、表 8 から、満 4 年までに半分（48 件）が発覚している。

表 8：不正発覚までの年数

発覚までの年数	件数（件）	割合（%）
0～1（年未満）	15	15.3
1～2	14	14.3

2～3	11	11.2
3～4	8	8.2
4～5	10	10.2
5～6	5	5.1
6～7	4	4.1
7～8	4	4.1
8～9	4	4.1
9～10	4	4.1
10～11	1	1.0
11～12	2	2.0
12～13	3	3.1
13～14	1	1.0
14～15	3	3.1
16～17	1	1.0
21～22	1	1.0
22～23	1	1.0
24～25	1	1.0
26～27	1	1.0
39～40	1	1.0
不明	3	3.1
合計	98件	100%
95件の平均	5.9年	

一般には、注目されて研究者も多い研究分野ほど研究不正の寿命は短いと推察されるが、研究者は、上の平均寿命 5.9 年と半数発覚時間 4 年を、どのように受け取るだろうか。「結構長持ちするものだね」と理解するのだろうか。「本稿で扱っている研究不正は、報道された事例だけで、そもそも氷山の一角であるから、真の平均寿命はずっと長いはずだ」、「本当の半数発覚時間もずっと長いはずだ」と自問自答するのだろうか。

しかし、研究費や研究の不正が発覚した場合の量刑は強化される一方であるから、上の数値は不正を誘発するには足りない、と考えたい。長く研究者として活躍したい、という意識が強ければ強いほど、短く感じられるはずである。

専門分野別、年齢層別、職位別にみた分布

次に、専門分野別、年齢層別、職位別の研究不正の分布（表9～11）を見ることにしよう。以下の三つの表で「延べ」は、捏造や盗用が重複している場合を重複カウントした数である。

表9を見ると、人文・社会科学系や教育学系の場合は盗用が中心であること、それとは対照

的に、実験系の場合（医学系、理工学系）は捏造・偽造が多くなっている。

表10と表11は類似の傾向を示している。つまり、若手は蓄積が少ないので盗用に走る傾向があるが、ベテランは蓄積が豊富になって引き出しが充実するため分布が平坦になる、と考えられる。そして、年齢を重ねて研究活力が落ちてくると再び盗用に傾く傾向も見えて取れる。

表9：専門分野別分布

専門分野	捏造	偽造（改竄）	盗用（剽窃）	その他	合計「延べ」
医学系（医歯薬学）	15件	7件	6件	7件	30件 [35]
理工学系	8件	3件	7件	2件	18件 [20]
人文・社会科学系	2件	—	36件	1件	39件 [39]
教育学系	1件	1件	5件	—	6件 [7]
農学	1件	—	—	—	1件 [1]
その他（不明3含む）	—	—	4件	—	4件 [4]
合計	27件	11件	58件	10件	98件 [106]
バイオ系	21件	7件	6件	7件	36件 [41]

表10：年齢層別分布

年齢	捏造	偽造（改竄）	盗用（剽窃）	その他	合計「延べ」
20代	2人	—	8人	—	10人 [10]
30代	5人	4人	8人	—	14人 [17]
40代	10人	3人	9人	3人	22人 [25]
50代	9人	3人	9人	2人	21人 [23]
60代	1人	—	11人	3人	15人 [15]
70代	—	—	2人	—	2人 [2]
不明	3人	5人	14人	2人	24人 [24]
合計	30人	15人	61人	10人	108人 [116]

表11：職位別分布

職位など	捏造	偽造（改竄）	盗用（剽窃）	その他	合計「延べ」
名誉教授	—	—	1人	—	1人 [1]
教授（客員等を含む）	9人	3人	20人	6人	37人 [38]
助教授、准教授	7人	1人	11人	1人	19人 [20]
講師（専任講師）	3人	3人	—	1人	6人 [7]
助手、助教	4人	3人	6人	—	9人 [13]
研究員（各種）	2人	4人	2人	2人	7人 [10]
大学院生、学部生	2人	—	12人	—	14人 [14]
不明・その他	3人	1人	9人	—	15人 [13]
合計	30人	15人	61人	10人	108人 [116]

まとめ：まず盗用予防、そして研究倫理運動を

本稿は、技術者倫理や研究倫理の授業で利用するために、(白楽氏の研究の存在を知らずに)集めてきた新聞記事等をまとめたものである。そのため、授業で学生たちに何を強調するか考える必要があるが、事情によっては、様々な分野の研究者の参考になるかも知れない。

まず、全体として(文科系は特に)盗用が多いので、その未然防止が研究倫理促進の最重要課題である。教育面(授業など)では、論文・レポートの書き方の指導の際に、良い例や悪い例を分かりやすく具体的に示すことが必要である。

同様に、例えば学会誌・専門雑誌の投稿規定では、推奨される場合、盗用と認定される場合などを具体的に説明する必要がある。グレーゾーンもあるから、冊子にまとめて全会員に配布し、説明会・講習会や冊子内容の定期的見直しを行うことが望ましい。

実験系の場合、盗用よりも捏造・偽造の対策の方に力を入れる必要がある。

若手(トレイニー)教育の局面では、盗用防止に重点を置くべきだろう。

若手は教授らを指導者(メンター)として手本にするので、教授らの事例件数が多いことはたいへん気がかりである。メンター格の研究者層が積極的に研究倫理を学び、この面でもトレイニー層を指導するという組織的活動、「研究倫理運動」が求められている。

本稿の論点ではないが、様々な研究分野に共通する研究倫理規範(ルール)をまとめ、共通テキストを作るという課題も指摘したい。ルールが教科書の形で整備・徹底されていないので違反を誘発している、と思われるからである。

筆者は、事例の情報源を新聞記事に頼っているが、それ以外を見出すこともある。そのような事例は次の6件(約6%)である。

事例36は日本化学会HPに短い会長アピールが掲載された事例、事例48は日本循環器学会HPに論文撤回の広告が簡潔に出された事例、

事例53は雑誌末尾に小活字の編集委員会の短い声明が載っている事例、事例57は大学紀要への投稿のお願い(文書)で短く再発防止の注意喚起をしている事例、事例82は大学HPで修士の学位取り消しを短く広告している事例(氏名などは非公表)、そして最後に、事例94は大学HPで修士の学位取り消しを広告している事例(珍しく対象者の氏名など公表)である。

これらの事例で、重大な研究不正の抑止効果を狙って、大学などの機関側が「報道刑」(文献5の11頁参照)を課さなかったのは、なぜだろうか。公表の仕方はどうあるべきだろうか。こうした点も含む研究不正の量刑も、研究倫理促進の検討課題である。

文献と注記

本稿における出典記事は次のように略記している。例えば、2003年8月1日付朝日新聞の記事の場合、「朝日20030801」と略記している。「W」は新聞社HP(ホームページ)掲載記事である。大学や研究所のHPに掲載されたプレスリリース等については「産総研20060303W」等と略記している。

- (1) 菊地重秋「我が国における研究不正(ミスコンダクト)等の概観——新聞報道記事から(その1)——」『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』第9号283-291(2009)。正誤の注記：表2の脚注の「表1」は正しくは「表2」である；表3の脚注の「表2」「表1」は正しくは順に「表3」「表2」である；表4の脚注の「表3」「表1」は正しくは順に「表4」「表2」である。また、表2~4の出典記事の記載が不適切であったので、以下に「事例1：出典記事」のように補足・訂正する。

表2・事例1：朝日20001020「教授、医学論文ねつ造 神奈川歯科大／装置ないのに「実験」免職処分、補助金も返還」；読売20001025夕「神奈川歯科大教授データねつ造問題 告発の講師を処分／大学側「一斉メール、学外に流出」と戒告」。

表2・事例2：朝日20001106「「最古の石器」自分で埋めた 「旧石器時代の第一人者」藤村氏認める／宮城・上高森 先月発掘の61点 北海道でも30点」；朝日20011004「前期旧石器存否白紙に 藤村元副理事長 ねつ造「当初から」」；朝日20020511W「石器捏造は74年からの可能性 共同研究者ら検証」；毎日20020511W「旧石器ねつ造：28年前からの可能性 考古学協会が調査報告」；毎日20030328W「旧石器ねつ造：高森遺跡も「クロ」、登録を削除 宮城県教委」；毎日20030518W「旧石器ねつ造：「74年から開始」 宮城県学会が最終報告」；朝日20030521W「74年からの遺跡捏造を確認 宮城県考古学会」；読売20030523W「“藤村遺跡”すべてねつ造、考古学協会が断定」；朝日20030524W「藤村氏関与の前・中期旧石器「すべて捏造」 協会結論」；読売20030524W「考古学協会が倫理綱領制定へ」；毎日20030524W「旧石器ねつ造：藤村氏関与の全約180遺跡、学術的価値を否定」；毎日20030524W「旧石器ねつ造：前・中期旧石器の全遺跡が無効 総括報告」；朝日20001107「学界、信頼回復へ動く／考古学協会長 個人プレーの「宝探し」反省」；読売20001107「揺らぐ考古学界＜上＞新発見だけが「存在価値」 自分遣いつめる在野研究者」；日経20001107「福島・安達町 遺跡の町、頭抱える 観光への期待に冷水」；朝日20001109「考古学が危ない！（上）」；朝日20001114「考古学協会 倫理綱領制定を検討／ねつ造事件 「新発見偏重」是正も」；読売20010508「ねつ造研究者が関与、福島の遺跡／「不自然な石器」2点発見」；朝日20010509「石器ねつ造 疑惑一段と深まる／県教委の検証部会 疑問点、次々と指摘」；日経20010612「早期決着に道筋 旧石器発掘ねつ造の検証／再発掘やコレクション調査で」；読売20011106「「建物跡」も誤認濃厚 藤村氏が石器ねつ造上高森遺跡」；朝日20011220「「ねつ造」判定検討委が報告 長尾根・小康坂遺跡」；読売20020317W「藤村氏関係の福島5遺跡の石器、資料にならず」；毎日20020317W「旧石器ねつ造

：福島県内5遺跡も？ 県考古学大会で発表」；毎日20020418W「旧石器ねつ造：26日から宮城・座散乱木遺跡を再発掘調査」；毎日20020501W「ねつ造遺跡：4遺跡出土の石器に不自然な点発見 仙台市教委」；毎日20020511W「捏造：北海道の4遺跡「不適格な資料」」；読売20020511W「旧石器ねつ造は74年から？ 元共同研究者が検証」；毎日20020518W「旧石器ねつ造：上高森遺跡すべてねつ造と断定 宮城県考古学会」；毎日20020519W「座散乱木遺跡：ねつ造の可能性さらに高まる 日本考古学協会」；毎日20020521W「下川田入沢遺跡：前期旧石器遺跡と認めない報告書 調査団発表」；読売20020526W「石器ねつ造、学術資料としては不可 考古学協会が見解」；朝日20020526W「旧石器発掘ねつ造 藤村氏関与の遺跡すべてに疑念」；毎日20020526W「旧石器ねつ造：藤村氏関与の遺跡、学問的価値否定 考古学協会」；読売20020527W「旧石器ねつ造、宮城・座散乱木遺跡の史跡指定解除へ」；朝日20020528W「「藤村遺跡」クロ 考古学協会が中間報告／批判受け止め、反省の言葉」；毎日20020609W「座散乱木遺跡：81年出土の石器はすべてねつ造 調査委が結論」；毎日20020609W「座散乱木遺跡：ねつ造の結論に不満顔の宮城県岩出山町長」；朝日20020614W「研究を蝕んだ「発見主義」 発掘捏造 30遺跡クロ判定」；毎日20021007W「石器発掘ねつ造：仙台・山田上ノ山遺跡を調査へ」；朝日20021010W「ねつ造問題の座散乱木遺跡の国史跡指定解除へ文化庁」；読売20021010W「ねつ造の座散乱木遺跡、国史跡指定を解除へ」；毎日20021010W「旧石器ねつ造：「縄文の生活誌」改訂版販売へ 講談社」；毎日20021010W「旧石器ねつ造：座散乱木遺跡を史跡指定解除 文化庁」；朝日20021202W「仙台市の山田上ノ台遺跡、再発掘調査で捏造確認」；読売20021209W「ねつ造「座散乱木」史跡解除を官報告示」；毎日20021213W「旧石器発掘ねつ造：道内4遺跡はすべてねつ造 調査検討委認定」。

表2・事例3：朝日20010225「出土8点→26点
なぜ増える？ 大分・聖嶽遺跡の怪」；朝日
20010620「「聖嶽」、旧石器遺跡でない 99年
再調査の報告書が結論 「混入」は未解決」；
朝日20031025W「「捏造と断じることが困難」
聖嶽洞窟調査で最終結論」；読売20031025W「聖
嶽遺跡ねつ造疑惑、否定も肯定も困難」；読売
20030515W「石器ねつ造疑惑報道で文春敗訴」
；朝日20030515W「自殺した名誉教授の遺族勝
訴 遺跡「捏造」記事訴訟」；毎日20030515W
「聖嶽洞穴訴訟：大分地裁、文芸春秋に賠償命
令」；毎日20030519W「損害賠償訴訟：遺跡ね
つ造報道で敗訴の文春が控訴 福岡高裁」。

表2・事例4：毎日20010601「拓大教授が論文
盗用 「文春新書」で 懲戒解雇される」。

表2・事例5：朝日20020418W「東京歯科大教
授が論文を盗用」；日経20020419「東京歯科大
の教授ら論文盗用 医師会がおわび」；日本医
師会20020419W「謹告」。

表2・事例6：日経20020629夕「「家族むかし
もいまも」コラムの連載中止」；毎日20020629W
「無断使用：東大教授のコラム連載中止 日本
経済新聞で」；読売20020629W「東大教授が他
人の著書が無断使用、日経連載コラム中止」。

表2・事例7：琉球新報20020821W「医学論文
盗作疑惑 琉球大学」；琉球新報20020828W「業
績主義まん延で弊害も 琉大医学部論文盗作
疑惑」；琉球新報20020905W「「全くの盗作」
と認定、助手と教授処分へ 琉大調査委」。

表2・事例8：赤旗20030216「国会活動34年の
経験から 自民党政治の現状をみる／不破議
長、不出馬表明にあたっての記者会見（大要）」
；日曜20030223「不破さんにここが聞きたい
70年代といま 政治論戦と衰退自民」；赤旗
20071119「原潜寄港を180日とめた分析化研事
件（1974年） 不破氏の追及／米政府に衝撃
米軍の自由 続けるのか」。

表2・事例9：読売20030801W「慶大の法学部
教授が海外論文を盗用」。

表2・事例10：毎日20030901W「旧石器ねつ造
：藤村前副理事長を告発」；朝日20031003W「石

器発掘捏造問題、告発状を受理 仙台地検が捜
査へ」；毎日20031023W「旧石器ねつ造：藤村
氏、偽計業務妨害容疑は不起訴 仙台地検」；
朝日20031024W「旧石器発掘捏造問題で藤村氏
を不起訴 仙台地検」。

表2・事例11：毎日20030919W「金沢大：教授
2人を停職処分」。

表2・事例12：朝日20031114W「昭和大医学部
教授が論文複数捏造 架空症例や虚偽データ」
；朝日20031114W「教授論文捏造問題で医学部
に調査委員会 昭和大」；毎日20031114W「昭
和大医学部：教授に論文ねつ造疑惑 調査委が
初会合」；毎日20031208W「昭和大医学部：教
授の論文ねつ造疑惑で調査結果報告」；朝日
20031208W「学内の調査委、論文捏造を否定 昭
和大医学部」。

表2・事例13：読売20031122W「海外の論文盗
用でスウェーデン人助教授が退職 名古屋」。

表3・事例1：朝日20001126「遺伝子検査時の
インフォームド・コンセント 半数の機関が実
施・確認せず／通産省調査 倫理指針を検討」。

表3・事例2：読売20010328夕「横浜市大研究
グループ 遺伝子 無断で採取・解析／共同研
究の理研へ虚偽報告」；赤旗20010329「遺伝子
を無断採取、解析 横浜市大医学部 研究グル
ープメンバー」；朝日20010419「遺伝子研究 無
断採取は161例 横浜市立大、検体の7割」。

表3・事例3：朝日20010516夕「してない遺伝
子解析「やった」 ウソ報告、補助金得る 横
浜市大医師」。

表3・事例4：朝日20010517「生命科学研究「倫
理を守れ」 文科省が通知」。

表3・事例5：朝日20011024「凍結受精卵を年
5000個処理 全国の医療機関対象に本社調査
／廃棄や研究利用 4分の1は文書同意得ず」。

表3・事例6：読売20020326W「肝炎治療薬治
験で収賄の防衛医大元教授に懲役4年求刑」；
毎日20020627W「臨床試験収賄：防衛医大元教
授に有罪判決 さいたま地裁」；読売20040421W
「製薬会社からわいろ、元防衛医大教授に2審

も有罪判決」；読売20050309W「治験巡り収賄、元防衛医大教授の上告棄却」。

表3・事例7：読売20020707W「透析医学会誌に患者が特定できる情報」。

表3・事例8：読売20020719W「「投薬で悪化」と告発の薬剤師会長、医師会圧力で辞任」。

表3・事例9：毎日20020728W「カドミウム米：対立データ無視 強引に結論づけ 厚労省研究班」。

表3・事例10：読売20021102W「患者に無断、防衛医大助教授が無償提供器具で臨床研究」；朝日20021103W「患者に無断で研究論文発表 防衛医大の麻酔科助教授」；読売20030329W「無断で患者に実験、防衛医大助教授ら処分」。

表3・事例11：朝日20021105W「遺伝子組み換えトウモロコシ、筑波大が無許可で栽培」。

表3・事例12：朝日20021113W「病理診断終えた検体、7割の病院で患者の同意なく流用」。

表3・事例13：朝日20030217W「比較臨床試験も説明義務、無断治療に賠償命令 金沢」；読売20030217W「「研究」と言わず治療、金沢大病院に賠償命令」。

表3・事例14：朝日20030218W「患者の血液無断流出、試薬メーカーに 富山医薬大」；読売20030218W「国立富山医薬大職員、患者自己血をメーカーに横流し」。

表3・事例15：読売20030417W「東大病院麻酔医、患者に無断で投薬効果を研究」；朝日20030417W「東大病院の医師、患者の同意得ず薬効の臨床試験」。

表3・事例16：読売20031030W「製薬会社が医師渡航費2350万円を“丸抱え”」。

表4・事例1：西日本19980821「九州看護福祉大 韓国人2講師が提訴へ 4ヵ月辞令なく「差別酌」」；西日本19980822「差別待遇で賠償提訴 九州看護福祉大の韓国人2講師 「福祉教える大学なのに」」；熊本19980822「「学内で差別的扱い」 九州看護福祉大学 韓国人2講師が提訴」。

表4・事例2：朝日19990522夕「「セクハラ」の訴え 教官が非難」／卒業生ら ネットで反論

へ 清泉女子大」；毎日20031126W「清泉女子大：教授が講義で名誉棄損発言 東京高裁が賠償命令」。

表4・事例3：琉球新報19991123W「「研究で嫌がらせ受けた」 琉大医学部助教授、指導教授を提訴」。

表4・事例4：琉球新報19991123W「「研究で嫌がらせ受けた」 琉大医学部助教授、指導教授を提訴」；琉球新報20030212W「琉大医学部助教授への嫌がらせで賠償命令 那覇地裁」；読売20030212W「教授が「助教授外し」、琉球大に賠償命令」；毎日20030212W「アカハラ訴訟：琉球大教授の嫌がらせ認定 国に賠償命令」；琉球新報20030225W「琉大医学部アカハラ訴訟、国が控訴の方針」。

表4・事例5：朝日20001024夕「論説委員室から アカハラ」；毎日20021010W「アカハラ：奈良県立医大助手の上告棄却 県の敗訴確定」。

表4・事例6：琉球新報20010627W「教授相手にきょう提訴 琉大医学部講師ら2人」。

表4・事例7：琉球新報20010627W「教授相手にきょう提訴 琉大医学部講師ら2人」。

表4・事例8：読売20020412W「教授による大学院受験妨害、国に賠償命じる 大阪地裁」；朝日20020412W「「アカハラ」認定 国に110万円の賠償命令 大阪地裁」；毎日20020412W「教授のセクハラ：国に110万円の賠償命じる 大阪地裁判決」；日経20020413W「大阪外大教授の「アカハラ」認定 大阪地裁、国に110万円賠償命令」。

表4・事例9：朝日20020830W「学生に「母乳くれんか」 東北大教授、セクハラで停職」；読売20020831W「東北大教授がセクハラ行為で停職処分」。

表4・事例10：毎日20021121W「セクハラ嫌疑：米子高専助教授が国と校長相手に賠償請求鳥取」。

表4・事例11：読売20021220W「高知大教育学部が学生への人権侵害防止対策を決める」。

表4・事例12：毎日20030203W「アカハラ：担当外された男性教授の地位保全認める 東京地裁」。

表4・事例13：毎日20030415W「広島大：研究費流用の教授 アカハラも判明、停職3カ月に」。

- (2) 菊地重秋「我が国における研究不正（ミスコンドクト）等の概観——新聞報道記事から（その2）——」『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』第10号283-296（2010）。表2～4の出典記事の記載が不適切であったので、以下に「事例1：出典記事」のように補足・訂正する。

表2・事例1：朝日20040107W「原子力技術調査研究員、論文で記者の著書が無断利用」。

表2・事例2：朝日20040206W「信州大教授、教え子の未発表論文盗用の疑いで停職6カ月」；読売20040206W「教え子のレポートを盗用、信州大教授に停職6か月」；毎日20040206W「盗用：信大教育学部教授を停職処分 教え子の未発表論文使い」。

表2・事例3：毎日20040615W「京大：学位論文に異議 取り消しと損賠求め元研究員が提訴」。

表2・事例4：毎日20041118W「理化学研究所：チームリーダーが“データ操作”指示 再解析し論文発表」。

表2・事例5：毎日20041224W「理化学研究所：副主任研究員が論文3本のデータを改ざん」；朝日20041224W「論文データ改ざん、米医学誌に発表 理化学研究所の2人」。

表2・事例6：読売20050519W「阪大チーム論文に不正データ、米医学誌に発表」；読売20050519W「阪大不正論文、基礎データ画像をパソコンで？ねつ造」；朝日20050519W「阪大グループ、捏造データで論文発表 米医学誌に」；毎日20050519W「データ改ざん：米医学誌への論文取り下げる 大阪大学」；読売20050520W「大阪大の論文データ改ざん、責任者の教授が陳謝」；朝日20050528W「阪大・論文捏造問題 学生「提出急がされた」 教授「圧力かけていない」」；毎日20050604W「阪大チ

ームの論文データねつ造：論文執筆学生、研究室に600万円寄付／200万は教授名口座」；東京20050604W「阪大教授口座に200万円 データ改ざん調査で発覚」；読売20050604W（13時16分）「論文ねつ造の阪大生から 教授200万円受け取る」；朝日20050604W「執筆学生が研究室に600万円を寄付 阪大論文捏造問題」；朝日20060215W「2教授を停職処分、学生は嚴重注意 阪大論文データ捏造」；読売20060215W「論文データ不正、阪大2教授停職 他にも3本ねつ造？」；毎日20060215W「阪大医学論文ねつ造：教授2人を停職処分 研究員は戒告に」；朝日20060216W「学生が2教授を名誉棄損で提訴へ 阪大論文捏造問題」；毎日20060221W「阪大論文ねつ造：他3件でも実験に参加せず 処分も未公表」；朝日20060530W「主筆の元学生、2教授を提訴 阪大論文捏造」；朝日20081226W「学生側の請求棄却 阪大の論文不正事件 大阪地裁」；毎日20081227W「阪大チームの論文データねつ造：損賠訴訟 元学生の訴え、棄却地裁」。

表2・事例7：朝日20050913W「東大教授の論文に「根拠得られず」 大学が再実験を要請」；毎日20050913W「東大教授論文：実験データに疑問 発表後に撤回、訂正」；読売20050914W「論文の信頼性に問題、遺伝子研究で生データなし 東大」；毎日20051229W「東大：多比良教授らを処分へ 論文裏付け資料出せず」；読売20051229W「論文データ改ざん疑惑、潔白資料出せない可能性」。

表2・事例7（追記）：産業技術総合研究所20050922W「研究ミスコンドクトに関する予備調査の開始について」；産業技術総合研究所20051202W「研究ミスコンドクトに関する予備調査結果概要について」；朝日20051202W「産総研も独自調査へ 東大教授らの論文データ裏づけ不足」；産業技術総合研究所20060303W「研究ミスコンドクトに関する調査結果報告と今後の措置について」。

表2・事例8：毎日20051220W「論文不正：京大教授を処分 女性助手に精神的嫌がらせも」

；朝日20051221W「京大教授、助手の論文を無断引用 停職処分に」。

表2・事例9：読売20040124W「遺跡ねつ造の藤村氏所属、東北旧石器文化研が解散」；毎日20040124W「発掘ねつ造：東北旧石器文化研が解散」；毎日20040126W「旧石器発掘ねつ造：「動機は、周囲の期待」藤村新一氏」；読売20040522W「“ねつ造検証委”解散、一連の旧石器疑惑検証に幕」；毎日20040522W「旧石器ねつ造：考古学協会の検証委員会が解散」。

表2・事例10：朝日20040212W「中央大教授が「盗用」疑惑 3カ月の職務停止処分」；読売20040212W「中大教授が他人の著書から盗用？職務停止3か月」。

表3・事例1：時事20010511「米大陪審 日本人研究者にスパイ容疑／遺伝子盗む 理研幹部ら2人起訴」；朝日20010513「理研 遺伝子持ち込み否定／岡本研究員 データ出所 「米国とは無関係」」；朝日20010522「遺伝子スパイ 理研対応に疑問の声 米研究者「トラブルなぜ放置」」；朝日20011129「研究試料の移転に規定 研究者の採用前チェック／遺伝子スパイ事件受け 理研が改善策」；朝日20020503W「岡本被告の身柄引き渡しを検討 遺伝子スパイ事件」；読売20021206W「遺伝子スパイ、無罪主張の「共犯」が「主犯格」を提訴」；読売20040101W「遺伝子スパイ事件、岡本被告を米に引き渡しへ」；毎日20040131W「遺伝子スパイ：米への岡本被告引き渡し 来週手続き開始」；朝日20040201W「遺伝子スパイ事件で米国への被告移送請求へ 東京高検」；朝日20040202W「東京高検、岡本被告の身柄を拘束 遺伝子スパイ事件」；読売20040202W「遺伝子スパイ事件の岡本被告、一両日中にも拘束」；毎日20040202W「遺伝子スパイ事件：岡本被告の引き渡し審査請求 東京高検」；毎日20040202W「経済スパイ事件：岡本元研究員の身柄拘束 東京高検」；読売20040203W「遺伝子スパイ事件の岡本被告を拘束、米引き渡し審査へ」；朝日20040204W「岡本被告の初審問は3月10日 遺伝子スパイ事件」；読売20040204W

「遺伝子スパイ、被告の引き渡しで来月10日に審問」；朝日20040310W「遺伝子スパイ被告引き渡し、月内にも判断 高裁で初審問」；読売20040310W「遺伝子スパイ審問 岡本被告、強い口調で無罪主張」；読売20040310W「遺伝子スパイ身柄引き渡し審問、岡本被告が正当性強調」；毎日20040310W「遺伝子スパイ：「身柄引き渡しは不当」 岡本被告審問」；読売20040328W「岡本卓被告の身柄引き渡し、29日にも可否決定」；朝日20040329W「岡本元研究員、在籍する北海道の病院に戻る 遺伝子事件」；朝日20040329W「遺伝子スパイ事件、高裁が元研究員の身柄引き渡し認めず」；読売20040329W「遺伝子スパイ否定の決定に「評価」と「困惑」」；読売20040329W「「米・遺伝子スパイ事件」、岡本被告の引き渡し認めず」；毎日20040329W「遺伝子スパイ事件：岡本被告を米に渡さず 東京高裁決定」；毎日20040329W「遺伝子スパイ事件：引き渡し拒否 実質無罪に検察衝撃」；毎日20040329W「遺伝子スパイ事件：岡本被告を米に渡さず 東京高裁決定」；読売20040330W「「遺伝子スパイ事件」高裁決定、米司法省が「遺憾」」；毎日20040420W「遺伝子スパイ：岡本氏と罰金刑の元助教 民事法廷で対面」；読売20041124W「遺伝子スパイ事件で元理研研究員と元米大助教和解」；毎日20040824W「遺伝子スパイ事件：拘束受けた元研究員、国を損賠提訴」；朝日20040824W「遺伝子スパイ事件で釈放の元研究員、国家賠償求め提訴」；読売20040824W「「不当拘束で苦痛」遺伝子スパイ事件・岡本氏が国訴え」；毎日20040917W「遺伝子スパイ事件：釈放された岡本元研究員が会見」；朝日20061031W「遺伝子スパイ事件、理研元研究員の請求を棄却」；読売20061031W「遺伝子スパイ事件、岡本元研究員の対国賠償請求を棄却」。

表3・事例2：朝日20040612W「臨床試験医に大学発製薬ベンチャーが未公開株 阪大」；読売20040612W「阪大教授、未公開株取得した会社の薬品を臨床試験」；朝日20040613W「国の指針に沿ったものと教授主張 臨床試験医の

未公開株」；毎日20040612W「未公開株：阪大
発ベンチャー 臨床試験担当教授に数億円分」
；毎日20040612W「未公開株：利害関係者への
提供は疑問 米国では禁止」；毎日20040612W
「阪大未公開株：教授ら被験者や学内審査委に
株保有説明せず」；毎日20040612W「大阪大病
院・臨床試験医未公開株取得 責任者、3200万
円で売却」；毎日20040612W「大阪大病院・臨
床試験医未公開株取得：識者談話」；毎日
20040612W「視点：未公開株取得問題 研究者
にもルールを」；毎日 y 20040614W「大阪大病
院・臨床試験医未公開株取得：厚労省、調査へ
／「事実確認し対応」 阪大教授らの未公開株
取得」；毎日20040630W「未公開株取得：利益
相反のルール策定、6大学／国立大学・毎日新
聞調査 臨床試験2大学」；毎日20040630W「利
益相反：ルール策定、6大学だけ／国立大アン
ケート、80大学回答 臨床試験想定、徳島大な
ど2大学」；毎日20040709W「未公開株取得：国
立大「利益相反」防止ルール／89大学中・策定
6、作業入り44 毎日新聞調査」；毎日20040713W
「未公開株取得：医学部設置の40国立大、6割
が「利益相反」のルール整備へ」。

表3・事例3：読売20050801W「アスベスト専
門委の座長、業界顧問だった 辞任へ」；毎日
20050801W「アスベスト：「健康検討会」座長
の桜井氏が石綿協会の顧問」；朝日20050801W
「石綿検討会座長に業界団体顧問の経歴 PR
ビデオに出演」。

表3・事例4：読売20040618W「産業技術総研、
未公開株取得で3人処分」；朝日20040618W「経
産省傘下の産総研、未公開株取得の職員処分」。

表3・事例5：読売20050421W「遺伝子組み換
えマウス、国立感染研も無届けで実験使用」；
毎日20050421W「遺伝子組み換えマウス：確認
受けず飼育 国立感染症研究所」。

表3・事例6：朝日20050521W「名大教授、補
助申請書類に虚偽 文科省1億5千万円交付」；
毎日20050521W「名大：事実と異なる研究実績
を記載し申請 文科省COEで」；読売20050521W
「名大大学院教授、誤った研究業績で補助金1

億5千万円」；読売20050630W「名大大学院教授
のCOE書類 調査委「重大な誤記載」」；朝日
20050630W「名大が調査報告 「重大な誤記載」
COE虚偽申請」；朝日20050912W「名大、虚偽申
請問題でCOE返上へ 補助金も辞退」；読売
20050913W「虚偽業績で研究費申請、名大が2700
万円返還へ」。

表4・事例1：読売20040124W「東大助教授が
院生に暴力、懲戒検討」；朝日20040316W「東
大、助教授を免職 指導学生に暴力、現金10万
円奪う」；毎日20040316W「暴行：東大助教授
を免職 研究室の大学院生に繰り返す」；読売
20040317W「院生に暴力の東大助教授を懲戒免
職、別の1人も被害」。

表4・事例2：共同20040319W「ゼミ生に暴力
の教授停職 和歌山大、研究室で殴る」。

表4・事例3：産経20090626W「和歌山大教授
がアカハラ主張 同大学長らを提訴」；産経
20100215W「アカハラ“加害者”を支援 処分
基準なく複雑化 再発防止へ」；毎日20110128W
「損賠訴訟：教授に嫌がらせ 訴え一部認める
地裁判決」。

表4・事例4：共同20040330W「教授会サボっ
てジム通い 茨城大助教授に停職3カ月」；毎
日20040330W「茨城大：助教授を停職処分 院
生に退学強要、無断欠席も」。

表4・事例5：日経20041025「「知財ハラスメ
ント」防げ／大学院生の発明 教官が特許出願
／政府、対策を検討」。

表4・事例6：読売20050618W「大声で学生し
っ責、アカハラ認定し九大が助教授戒告」；毎
日20050618W「理不尽説教：理系学部の男性助
教授を戒告処分 九州大」。

表4・事例7：読売20051014W「中国人留学生
「教授が嫌がらせ」」；毎日20051014W「アカ
ハラ：香川大教授が中国人留学生に？ 調査委
設置」；朝日20060729W「うどん屋巡りで授業
遅刻 香川大、教授を停職処分」；毎日
20060729W「香川大：授業もせずに単位認定、
教授ら5人処分」。

表4・事例9：朝日20040416W「九大教授のセクハラ疑惑を学生が訴え 本人は否定」；共同20041125W「学生らに嫌がらせ、20年繰り返す九州大教授を解雇処分」；朝日20041126W「九大、2教授を処分 学生への進路妨害・セクハラ」；東京20041126W「“アカハラ”の教授解雇 九州大45人被害訴え」；毎日20041126W「九州大：アカハラやセクハラで男性教授を論旨免職」；読売20041126W「アカデミック・ハラスメントで九大教授を論旨解雇」。

表4・事例10：読売20040928W「北大教授が女性職員にセクハラ、減給処分3か月」。

表4・事例11：朝日20041224W「東大教授がセクハラ行為で停職 元教授も論旨解雇相当に」；読売20041224W「東大2教授、セクハラで処分 性行為強要・旅行に誘う」；毎日20041224W「東京大：セクハラで2教授を処分」。

表4・事例12：毎日20050407W「セクハラ：お茶の水女子大教授に230万円支払い命令」；朝日20050407W「セクハラ訴訟、お茶の水女子大教授に230万円賠償命令」；読売20050627W「教授のセクハラ、懲戒処分は妥当 東京地裁判決」；毎日20050627W「セクハラ教授：大学側の活動停止処分は違法 東京地裁」；朝日20050627W「教育活動3年停止は「長過ぎ」 お茶大に百万円賠償命令」。

表4・事例13：読売20050715W「同大大学院に社会人入学の女性、教授セクハラと提訴」；京都20080807W「150万円支払い和解 京都地裁 同大大学院セクハラ」；産経20080808W「教授のセクハラで同志社、元学生と和解」。

- (3) 菊地重秋「我が国における研究不正（ミスコンダクト）等の概観——新聞報道記事から（その3）——」『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』第11号185-198（2011）。
- (4) 菊地重秋「我が国における研究不正（ミスコンダクト）等の概観——新聞報道記事から（その4）——」『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』第12号219-232（2012）。
- (5) 白楽ロックビル『科学研究者の事件と倫理』講談社（2011）。

- (6) 琉球新報19980327W「助教授に損害賠償命令」、琉球新報19990217W「セクハラ問題 助教授を懲戒免職 琉大評議会が処分決定」、琉球新報19990305W「最終結論持ち越す 臨時評議会で助教授が陳述 琉大でのセクハラ」、琉球新報19990331W「国立大で初めて 琉大セクハラ問題 助教授を懲戒免職」
- (7) 読売20080111W「産総研の研究者が無断引用、鳥取大発行物に酷似」、産業技術総合研究所20080111W「産総研出版物における他文書の不適切な引用について」
- (8) 読売20080119W「小樽山博さんが盗用」、毎日20080119W「女の気持ち：小樽山博さんが盗用 JR北海道の車内誌に」、朝日20080119W「毎日新聞の読者投稿を盗用 泉鏡花賞作家の小樽山氏」
- (9) 筑波大学20080306W「本学教員が発表した論文における不適切なデータ解析について」、筑波大学20080829W「本学職員の懲戒処分について」、筑波大学20081017W「職員の懲戒処分について」、筑波大学20091026W「本学職員の懲戒処分に係る報道について」、毎日20100420W「筑波大教授の論文データ改ざん：解雇元教授訴訟 筑波大の解雇妥当 請求棄却 元教授の請求棄却」
- (10) 産経20080324W「剽窃批判で「寝床で読む『論語』」が絶版」、毎日20080325W「筑摩書房：新書「寝床で読む『論語』」絶版に 訳文流用で」
- (11) 東北大学20091204W「懲戒処分の公表」、産経20120228W「東北大の女性元助教の請求棄却 仙台、論文不正疑惑で解雇」
- (12) 日本循環器学会20081010W「Urgent Announcement From the Editor-in-Chief Concerning Article Retraction」
- (13) 共同20081029W「教授解雇は重すぎ無効 国際基督教大の論文盗作」、毎日20081030W「地位確認訴訟：国際基督教大の教授解雇は無効地裁判決」、共同20090618W「教授解雇、二審も無効判決 「論文無断引用は院生」」

- (14) 朝日20081103W「東北大病院助教、論文引き
写し 専門誌に寄稿、厳重注意」、読売
20081104W「東北大病院で助教が論文不適切引
用」、河北新報20081104W「東北大病院助教が
論文で無断引用 厳重注意処分に」
- (15) 共同20081107W「山形大大学院生が論文盗用
在校時、詳細は公表せず」、河北新報20081108W
「元院生が論文盗用 山形大医学部」、産経
20081108W「山形大大学院生が論文盗用」、毎
日20081108W「山形大：医学部院生、論文盗用
し発表 修了で処分できず」
- (16) 共同20081218W「岐阜大、論文盗用で教授停
職 大学院准教授もセクハラで」、毎日
20081219W「岐阜大：セクハラで准教授、論文
盗用で教授を停職に」、岐阜大学20081218W「職
員の懲戒処分について」、共同20091008W「論
文盗用で岐阜大教授を解雇 6人から88カ所丸
写し」、毎日20091008W「岐阜大：盗用疑惑で
教授を懲戒解雇処分 論文など88カ所」、朝日
20091008W「岐阜大、論文盗用と教授を懲戒解
雇、教授側は争う構え」、読売20091009W「論
文盗用して出版、岐阜大教授を懲戒解雇」、岐
阜大学20091008W「研究活動上の不正行為に関
する調査結果の概要について」、毎日20100514W
「元岐阜大教授解雇無効訴訟：大学側争う姿勢
初弁論」
- (17) 『日本の科学者』第44巻1月号56頁
- (18) 広島大学20090326W「教員の懲戒処分につい
て」、産経20090326W「広島大教授ら論文盗用
停職、解雇処分」、産経20090326W「アカハラ
相談を2年間も放置 広島大副学長が会見で謝
罪」、毎日20090326W「論旨解雇：広島大准教
授、指導院生の論文盗用で」
- (19) 上掲(18)参照。
- (20) 鶴岡工業高等専門学校20090428W「本校教員
に対する懲戒処分について」
- (21) 東京工芸大学工学部紀要編集委員会20090515
「「工学部紀要」投稿のお願い」
- (22) 福岡教育大学20090731W「教育研究活動上の
不正な行為について」、毎日20090731W「文章
盗用：福岡教育大准教授が有料教材に 代金全
額返還」
- (23) 九州大学20090805W「学位論文における研究
不正行為の認定及び学位授与の取消しについ
て」
- (24) 東京大学20100305W「博士の学位授与の取消
しについて」、東京大学20100402W「懲戒処分
相当の公表について」、東京大学20100723W「ア
ニリール・セルカン元東京大学工学系研究科助
教に係る論文の不正行為に関する調査報告に
ついて」、東京大学20101126W「博士論文に関
する不正行為をめぐる問題について」
- (25) 毎日20091121W「不正疑惑：日本人医師が著
者の論文 英医学誌に03年掲載」、読売
20091121W「昭和大病院元医師の論文に疑問、
医学誌掲載後削除」
- (26) 北日本漁業経済学会20091124W「掲載論文の
取消について」、東京海洋大学20100201W「本
学准教授の論文に関する報道について」、北日
本漁業経済学会20100419W「論文「盗作疑惑」
に関する公開質問書」
- (27) 毎日20091217W「無断引用：佐賀・伊万里市
史から「厳木町史」50ページ 唐津市教委刊行」
- (28) 朝日20100107W「国立研究所長が論文盗用、
使い回しも 社会福祉の権威」、読売20100107W
「国立研究所長が「無断引用」、海外の社会福
祉論文」、読売20100107W「論文無断引用の国
立研究所長「盗用ではない」、毎日20100107W
「無断引用：社会保障・人口問題研究所長が出
典明記せずに」
- (29) 東北学院大学20100331W「『東北学院大学論
集』掲載論文の取り下げについて」、毎日
20100331W「盗用？：英文科教員が自筆として
論文掲載 論集を回収 東北学院大 調査委
設置」、読売20100331W「東北学院大教員、論
文盗用か 調査委発足 英文翻訳し使う？」、
河北新報20101120W「東北学院大 論文盗用の
准教授を処分 翻訳で94%構成」
- (30) 名古屋市立大学20100331W「大学院経済学研
究科における学位の取り消しについて」

- (31) 琉球新報20100701W「琉大が全学調査委 医学部論文データ流用」、沖縄タイムス20110630W「琉大論文不正：ドタバタ劇に募る不信」
- (32) 宮崎大学20100903W「宮崎大学農学部での研究活動における不正行為（ねつ造）に関する調査結果の公表について」
- (33) 徳島大学20100903W「研究不正（論文の盗用）について」
- (34) 広島大学20110118W「学位授与の取消し及び学位記の返還について」
- (35) 獨協医科大学20120203W「研究者の不正行為についてのお詫びとご報告」
- (36) 毎日20110225W「東北公益文科大：研究論集を回収 著作権配慮欠き」
- (37) 共同20110227W「准教授が論文のデータを捏造か 三重大と名古屋大が調査」
- (38) 名古屋市立大学20120319W「名古屋市立大学における研究上の不正疑惑に係る調査結果（概要）」「学長コメント」「研究上の不正疑惑に関する調査報告書」、熊本大学20120319W「熊本大学における研究上の不正疑惑に係る調査結果（概要）」
- (39) 金沢大学20110328W「研究者倫理の遵守の徹底について」、読売20110427W「金沢大、見識疑う情報隠し 処分者の実名を非公表 プライバシー盾 研究内容も」
- (40) 神戸大学20110701W「教員の懲戒処分について」
- (41) スポーツ報知20110719W「信州大名誉教授が学長を提訴」、毎日20110720W「提訴：信大名誉教授、著作権侵害で学長を「自著から図や表盗用」」、中日20110720W「著作盗用で信大学長を提訴 名誉教授の山田氏」
- (42) 相山女学園大学20111028W「現代マネジメント学部教授3名への停職処分に関する報道について（お詫び）」、相山女学園20120424W「懲戒処分について」
- (43) 東京大学20111209W「東京大学社会科学研究所助教に係る論文等の不正行為及び博士の学位授与の取消しについて」、東京大学20120330W「懲戒処分（相当）の公表について」
- (44) 筑波大学20111216W「修士の学位及び課程修了の取消しについて」
- (45) 朝日20120105W「防衛大教授、中国軍の著作で無断引き写し 大学が調査」
- (46) 早稲田大学20120204W「修士学位の取り消しについて」
- (47) 滋賀大学20120521W「懲戒処分の公表について」
- (48) 毎日20120217W「立命館大：ネットから論文盗用、准教授の処分検討」
- (49) 東京医科歯科大学20120309W「本学職員の懲戒処分について」
- (50) 東京工業大学20120224W「研究プロジェクトにおける研究活動に関する調査報告について」
- (51) 東邦大学20120312W「東邦大学医学部における臨床研究の倫理規範悖反について」
- (52) 日本循環器学会20121227W「Kyoto Heart Study 関連論文の撤回について」
- (53) 大分大学20120522W「学位授与の取消し及び「学位記」の返還について」
- (54) 朝日20120405（朝刊）「東大教授、引責辞任論文に不適切データ」
- (55) 共同20130205W「論文盗用で教授再び処分 名古屋・相山女学園大」
- (56) 熊本日20120906W「医学論文不正疑惑、解明行わず 熊本大大学院」
- (57) 早稲田大学20120928W「人間科学学術院の学生諸君へ」
- (58) 慶応大学20121001W「修士学位の取消しについて」
- (59) 東京大学20121019W「懲戒処分の公表について」
- (60) 時事20121013W「論文無断転載、「混同した」租税法学会理事長の明大教授」
- (61) 山形大学20121207W「研究活動における不正行為について」
- (62) 京都府立医科大学20130225W「発表論文の疑義に係る調査結果について」
- (63) 文部科学省「公的研究費の管理・監査に関する研修会」（2012年12月）、読売20130208W「研究費不正使用に罰則強化 応募停止最長10

年」、朝日20130208W「研究費不正に厳罰 政府、
応募制限を最長10年に」、毎日20130208W「文
科省：研究費不正に厳罰 応募停止最長10年
に」

(64) 東北大学は再調査すると報じられている：河
北新報20130322W「3論文に同一写真？ 東北大
・井上前総長 近く調査委設置」、河北新報

20130323W「東北大井上前総長 実験データも
不正か 大学に調査依頼」

(65) 次の記事の事例は発表されて間もなく表1に
未収録：毎日20130330W「広島女学院：論文盗
用の副学長を解任」、産経20130330W「論文盗
用で広島女学院大教授処分」、読売20130330W
「論文にHPや書籍から盗用の女性副学長、解
職」

表1：重大な研究不正（捏造・偽造・盗用）の事例リスト

番号	報道日	不正時期	所属機関	職位など	専門分野	不正の種類	処分など
1	1998 0327	1993～ 1995	琉球大学・農学部	助教授 (54)	農学？	セクハラ、違法 実験指示、捏造	懲戒解雇、セクハラ損害 賠償 170 万円支払い命令 (地裁)、文献 6 参照
2	2000 1020	1998～ 2000	神奈川歯科大学	教授 (51)	医学 (歯科薬理 学)	捏造	懲戒解雇、文献 1 参照
3	2000 1106	1974～	東北旧石器文化研究所（民間）	副理事長 (50)	考古学	捏造（石器など）	除名、文献 1 と 2 参照
4	2001 0225	① 1962 ② 1999	別府大学（聖嶽 洞穴遺跡の調査団）	① 教授 ② 教授	考古学	捏造疑惑	出土物の管理がずさんで 捏造判定は困難（学術的 価値なし）、文献 1 参照
5	2001 0601	2001	拓殖大学・国際 開発学部	教授	経済学	盗用	懲戒解雇（大学）、著書 の回収・絶版（文藝春秋 社）、文献 1 参照
6	2002 0418	2002	東京歯科大学 （市川総合病院）	助手、教授	医学	盗用（助手）	論文撤回、暫く学会誌投 稿など自粛（日本医師会 常任理事談）、文献 1 参 照
7	2002 0629	2002	東京大学・史料 編纂所	教授	歴史学	盗用（無 断使用）	謝罪文掲載、コラム連載 中止、文献 1 参照
8	2002 0821	2000	琉球大学・医学 部	教授 (61)、 助手 (38)	医学	盗用（助 手）	医学部の調査委員会が調 査中、文献 1 参照
9	2003 0801	2002	慶応大学・法学 部	教授 (56)	法学 (租税)	盗用	論文削除、引責辞任の意 向、文献 1 参照

					法)		
10	2003 0919	—	金沢大学・医学 部	教授	医学 (保健 学?)	盗用	停職 1 カ月、文献 1 参照
11	2003 1114	1995～ 2001	昭和大学・医学 部・脳神経外科	講師 (43)	医学	捏造(架 空症例 など)	ミスあるが不正なし(大 学)、脳神経外科学会： 調査中、文献 1 参照
12	2003 1122	1994～ 2001	名古屋経済大 学・短期大学部	助教授 (53)	人文科 学?	盗用	依願退職、スウェーデン 人、文献 1 参照
13	2004 0107	2003	(財団法人) 若 狭湾エネルギ ー研究センタ ー	研究員	社会科 学?	盗用	謝罪、論文削除、文献 2 参照
14	2004 0206	1995～ 1996	信州大学・教育 学部	教授 (57)	英語教 育学	盗用な ど	停職 6 カ月、文献 2 参照
15	2004 0212	1999～ 2000	中央大学・法学 部・日本比較法 研究所	教授・元所 長 (67)	法学 (英米 契約 法)	盗用(疑 惑)	職務停止 3 カ月、2 著作絶 版、3 学会の理事を辞任、 文献 2 参照
16	2004 0615	1994	コスモ石油研 究所	部門長	工学	盗用(著 作権侵 害)	被害者が京都大学を提訴 (博士号取り消し・損害 賠償など請求)、文献 2 参照
17	2004 1118	1999	理化学研究所 ・脳科学総合研 究センター	研究チー ムリーダ ー (40 代)	医学	実験デ ータ操 作(偽 造)疑惑	毎日新聞が 1 回「疑惑」 を報道しただけ?、文献 2 参照
18	2004 1224	1998～ 2003	理化学研究所	副主任研 究員、研究 員	医学	偽造 (3 論文)	自主退職 2 人、論文撤回、 文献 2 参照
19	2005 0519	2004	大阪大学・大学 院・医学系研究 科	医学部の 学生 (6 年 生) ほか	医学	捏造な ど	論文撤回、厳重注意 1 学 生、停職 2 教授、戒告 1 人、文献 2 参照
20	2005 0913	1998～ 2004	東京大学・大学 院・工学系研究 科	教授 T (54)、助 手 K (38) (下と同 じ)	工学	捏造疑 惑	4 論文撤回、懲戒解雇 2 人、 文献 2 と 3 参照
20*	2005 0913	2002～ 2004	産総研・ジーン ファンクショ	センター 長 T、研究	工学	捏造疑 惑	7 論文撤回、雇用契約不更 新：T、研究員登録終了：

			ン研究センタ ー	員 K (上と 同じ)			K、文献 2 と 3 参照
21	2005 1220	2002	京都大学・大学 院・農学研究科	教授 (60)	林業経 済学	盗用	停職 3 カ月、論文抹消 (2003 年 3 月、学会誌)、 文献 2 参照
22	2006 0309	2004～ 2005	(講談社・ブルー バックス出 版部)	科学ジャ ーナリス ト (61)	科学史	盗用(引 用明記 せず)	回収・絶版 (ブルーバッ クス 2 冊)、文献 3 参照
23	2006 0427	2004	神戸大学・工学 部	教授 (59)、 教授 (57)、 助教授 (44)	工学	捏造(特 許出願 の実験 データ)	特許出願取り下げ、訓告 2 教授、厳重注意：助教授 ら、文献 3 参照
24	2006 0629	2005	山形大学・医学 部・総合医学研 究センター	教授 (49)	医学	捏造(指 示)	懲戒解雇、論文撤回 (方 針)、文献 3 参照
25	2006 0719	2003～	信州大学・教育 学部 (全学教育 機構)	助教授 (42)	教育学	捏造な ど	懲戒解雇、文献 3 参照
26	2006 0804	2003～ 2005	国立感染症研 究所・エイズ研 究センター	第一研究 グループ	医学	不正疑 惑	実験データ管理で不備な ど、1 論文撤回、1 論文訂 正、文献 3 参照
27	2006 0907	2002～ 2006	大阪大学・大学 院・生命機能研 究科	教授 (63)	生化学	捏造な ど	懲戒解雇、2 論文撤回な ど、文献 3 参照
28	2006 1003	2006	専修大学・文学 部	教授 (60)	教育社 会学	盗用な ど	論文撤回、謝罪文を大学 HP に掲載、文献 3 参照
29	2006 1005	2005	自衛隊中央病 院	医官 (38)	医学	捏造な ど	論文撤回、処分検討 (防 衛庁等)、文献 3 参照
30	2006 0529	2006	名古屋芸術大 学・美術学部	元教授・洋 画家 (66)	美術学	盗作(洋 画作品)	芸術選奨文部科学大臣賞 など取り消し、退会勧告 (国画会)、文献 3 参照
31	2007 0127	2002	九州大学・大学 院・芸術工学研 究院	教授 (57)	工学	盗用(著 作権侵 害)	出勤停止 3 カ月、絶版・ 回収等、著作権侵害の和 解金の支払い、文献 4 参 照
32	2007 0129	2003～ 2004	明治大学・情報 コミュニケー ション学部	助教授 (45)	法学	盗用	懲戒解雇、紀要回収・論 文撤回など、文献 4 参照
33	2007 0227	2006	大阪府立大学 ・大学院・工学	大学院生	工学	捏造(実 験デー	論文撤回、奨励賞取り消 し、修士論文不合格・停

			研究科			タ)	学など、文献 4 参照
34	2007 0614	2004	大阪大学・大学院・医学系研究科	教授 (43、 責任著者)	医学	不正疑惑(再現性なし等)	教授会の勧告を受けて論文を撤回、文献 4 参照
35	2007 0727	2005	神戸市外国語大学・外国語学部	准教授 (46)	経済学	盗用	論旨解雇、被害者に謝罪、著作絶版、文献 4 参照
36	2007 0801	2007	日本化学会	会員?	化学?	盗用未遂(査読で発覚)	原稿不受理と嚴重注意、会長アピールを学会 HP に掲載、文献 4 参照
37	2007 0809	——	①関西学院大学、②一橋大学	① 元教授 ② 元客員教授 (同一人物)	経済学	盗用など	欧米で複数論文を撤回、ドイツ人?、文献 4 参照
38	2007 0829	2006	文京学院大学・大学院・経営学研究科	元大学院生 (40 代)	会計学	盗用(修士論文)	税理士資格の取り消し、修士号の取り消し(?)、文献 4 参照
39	2007 1011	2004～ 2007	鹿児島大学(医学部付属病院)	助教・医師 (38)	医学(呼吸器学)	捏造・偽造	論文撤回、研究費 3 件の返還など、文献 4 参照
40	2007 1024	1999～ 2007	北大大学院メディア・コミュニケーション研究院	准教授 (46)	教育史・異文化理解	盗用	自主退職、懲戒解雇相当(退職金不支給)、中国籍、文献 4 参照
41	2007 1102	1998	亜細亜大学	教授 (60)	歴史学	重大な事実誤認・誤訳	名誉棄損の損害賠償など 400 万円支払い命令(確定)、文献 4 参照
42	2007 1227	1993～ 2007	東北大学	総長・教授 (60)	工学	不正疑惑(再調査)	二重投稿で 6 論文撤回、大学は再調査、告発者との間で係争中、文献 4 参照
43	2008 0111	2004	産業技術総合研究所・計測標準研究部門	研究員	工学	盗用(無断引用)	謝罪、処分検討、引用先を明記して再発行の予定、文献 7 参照
44	2008 0119	2008	北海道教育大学	特任教授・小説家 (70)	文学	盗用(小説に新聞投稿を盗用)	謝罪、JR 北海道車内誌の回収、特任教授などの辞任(意向)、文献 8 参照

45	2008 0306	2006	筑波大学・大学院・数理物質科学研究科	教授 (54)、 講師 3 人	物理学	論文データ偽造	論文撤回勧告、教授：懲戒解雇、講師 3 人：停職 1～4 カ月、文献 9 参照
46	2008 0324	2006	弘前大学・教育学部	教授 (49)	文学 (中国哲学)	盗用(訳文流用)	謝罪、絶版(新書『寝床で読む「論語」』筑摩書房)、文献 10 参照
47	2008 0701	2001～ 2007	東北大学・大学院・歯学研究科	助教 (39)	歯学	捏造・偽造など	懲戒解雇、黒屋奨学賞の取り消し(日本細菌学会)、文献 11 参照
48	2008 1010	2008	日本循環器学会	H.O.ら(合計 7 人、職位不明)	医学	盗用	論文撤回(日本循環器学会)、文献 12 参照
49	2008 1029	2005	国際基督教大学	大学院生(4 人)、 元教授(53)	心理学	盗用(無断引用)	解雇(2007)→解雇無効(高裁判決、大学院生の盗用に気づかず)、文献 13 参照
50	2008 1103	2007	東北大学病院(肝胆膵外科)	医師・助教(30 代)	医学	盗用(引用を明示せず)	実名公表・投稿禁止(専門誌)、厳重注意(大学)、文献 14 参照
51	2008 1107	2008	山形大学・大学院・医学系研究科	大学院生(当時)・ 医師(31)	医学	盗用	論文撤回、既に大学院修了のため処分せず・詳細公表せず、文献 15 参照
52	2008 1218	1994～ 2007	岐阜大学・地域科学部	教授 (58)	社会福祉学	盗用(引用を明示せず)	停職 3 カ月(2008)→調査継続→懲戒解雇(2009)、教授は提訴、文献 16 参照
53	2009 0101	——	日本科学者会議	——	——	盗用(記事でコピー等)	反省の返答(当該執筆者)、文献 17 参照
54	2009 0326	2007(盗用)	広島大学	准教授(50 代)	——	盗用、アカハラ	論旨解雇、文献 18 参照
55	2009 0326	2008	広島大学	教授(50 代)、助教	——	盗用(助教)	教授：停職 3 カ月、助教(発覚後の 2008 年に退職)、文献 19 参照
56	2009 0428	2003、 2006	鶴岡工業高等専門学校	准教授(40 代)	言語学	盗用	停職 6 カ月、謝罪、校長「本人と分かる情報は差し控える」、文献 20 参照
57	2009 0515	2008	東京工芸大学	教員、名誉教授	体育学	盗用(教員)	教員：不明、(名誉教授：名誉教授の称号取り消し検討)、文献 21 参照

58	2009 0731	2005～ 2008	福岡教育大学	准教授	教育学	盗用(無 断で複 製・転 載)	処分を検討、教材の販売 代金を全額返還、文献 22 参照
59	2009 0805	2001	三菱化学	研究者 (60)	工学	虚偽記 載	企業秘密を守るため虚偽 記載、学位(論文博士) 取消し、文献 23 参照
60	2009 1109	2003～	東京大学・大学 院・工学系研究 科	助教(36、 トルコ国 籍)	工学	盗用(博 士論文 等)など	博士号取り消し・懲戒解 雇相当・著書絶版、指導 教授は停職 1 カ月、文献 24 参照
61	2009 1121	2003	昭和大学・藤が 丘病院	日本人医 師(筆頭著 者)ほか	医学	捏造(疑 惑)	論文撤回(調査結果を受 けて医学誌ランセットが 判断)、文献 25 参照
62	2009 1124	2009	東京海洋大学 ・海洋科学部	准教授 (35)ら	経済学	盗用(出 典など 記載な し)	論文取り消し(北日本漁 業経済学会)、口頭厳重 注意(大学)、文献 26 参 照
63	2009 1217	2009	西九州大学・健 康福祉学部	非常勤講 師(元高校 教師、66)	歴史学	盗用(無 断引用 50 頁)	被害者に陳謝、『厳木町 史』中巻を回収・再発行 する方針、文献 27 参照
64	2010 0107	1986、 2003 等	国立社会保障 ・人口問題研究 所	所長(67)	社会福 祉学	盗用(出 典明記 せず)	所長「自分の視点で書き 直しており、盗用ではな い」、文献 28 参照
65	2010 0331	2010	東北学院大学 ・文学部・英文 学科	准教授 (51)	英文学	盗用(翻 訳が論 文の 94 %)	出勤停止 6 カ月、本人の 撤回要請で発覚、紀要を 回収し再発行、文献 29 参 照
66	2010 0331	2009	名古屋市立大 学・大学院・経 済学研究科	元大学院 生(博士課 程)	経済学	盗用(図 4 カ所)	博士の学位の取り消し、 論文撤回、掲載誌の回収 ・再発行、文献 30 参照
67	2010 0701	2003～	琉球大学・大学 院・医学研究科	教授(40 代)	医学 (ウイ ルス 学)	データ 流用等 (38 論 文)	懲戒解雇→停職 10 カ月、 11 論文は大学院生の学位 論文に関係、文献 31 参照
68	2010 0903	2009	宮崎大学・農学 部	准教授 (49)	生物学 (植物 生理 学)	捏造(実 験デー タ)	懲戒解雇、文献 32 参照
69	2010	2006～	徳島大学・大学	大学院生	工学	盗用(3	大学院生の名前・性別・

	0903	2009	院・先端技術科学教育部	(当時)		論文)	処分の有無など非公表、論文撤回、文献 33 参照
70	2011 0118	2007	広島大学・大学院・社会科学研究所	大学院生 (33)	経済学?	盗用(無断引用)	博士号の取り消し、著作の回収・絶版、中国人留学生、文献 34 参照
71	2011 0208	2002～ 2011	獨協医科大学・内分泌代謝内科	教授 (57) ほか教授ら 9 人	医学	データの流用・偽造など	教授：論旨退職、他の著者は無罪、論文撤回 7 本以上、文献 35 参照
72	2011 0225	2009	東北公益文科大学	名誉教授 (非常勤講師、72)	文学?	盗用(引用が不適切)	非常勤講師を解職、名誉教授の称号を返還、研究論集の再発行、文献 36 参照
73	2011 0227	1996～ 2010	三重大学・大学院・生物資源学研究科 (2004～)	准教授 (40 代)	分子生物学・食品機能化学	捏造・偽造(撤回 2 論文)	名古屋大学と三重大学が調査、名大助手 (1992～2004)、文献 37 参照
74	2011 0303	1997～ 2011	名古屋市立大学・大学院・医学研究科	教授 (57)、 准教授 (43)	医学	捏造など (19 論文)	教授：停職 6 カ月 (メンタリング責任)、准教授：懲戒解雇、文献 38 参照
75	2011 0325	2000～ 2010	金沢大学・医薬保健研究域・医学系	講師 (40 代)	医学	捏造、研究費不正	懲戒解雇、科研費返還、文献 39 参照
76	2011 0701	2010	神戸大学・大学院・人文学研究科	准教授 (45)	文学 (科学哲学)	盗用(無断引用)	停職 3 カ月、論文投稿禁止等 2 年間 (日本科学哲学会)、文献 40 参照
77	2011 0719	1989	信州大学	学長 (66)	工学	盗用(無断引用)	被害者が図表削除・謝罪を求め提訴、文献 41 参照
78	2011 1025	2004～ 2009	椋山女学園大学・現代マネジメント学部	教授 (60)	文学 (現代思想)	盗用	停職 6 カ月の後に追加で不正が発覚して懲戒解雇、文献 42 参照
79	2011 1209	2009～ 2011	東京大学・社会科学研究所	助教 (33)	教育学	盗用(博士論文など)	博士号取り消し、自主退職、論旨解雇相当 (退職金不支給)、文献 43 参照
80	2011 1216	2007	筑波大学・大学院・システム情報工学研究科	大学院生 (31)	経営学?	盗用	修士の学位と課程修了の取り消し、中国籍、文献 44 参照
81	2012 0105	2010	防衛大学校	教授 (63)	防衛学?	盗用(無断引用)	調査中、文献 45 参照
82	2012	2009	早稲田大学・大	大学院生	法学	盗用	修士 (法学) の学位の取

	0204		学院・法学研究科	(修士課程、当時)			り消し、文献 46 参照
83	2012 0210	1996～ 2011	滋賀大学・教育学部	教授 (53)	教育学	盗用・重複投稿など	撤回 18 論文、論旨解雇、文献 47 参照
84	2012 0217	2011	立命館大学・情報理工学部	准教授 (40 代、語学教員)	経営学?	盗用	ネット上の英語論文をコピー、処分検討中、米国籍、文献 48 参照
85	2012 0224	2008～ 2010	東京医科歯科大学・医学部・附属病院	助教 (43)	医学	データ捏造・偽造	助教に 3 論文撤回を要請、懲戒解雇、文献 49 参照
86	2012 0224	2009～ 2011	東京工業大学・カーボンアロイ触媒集中研究室	産学官連携研究員 (35)	工学	データ捏造・偽造	3 論文撤回、2 特許出願取り下げ、懲戒解雇、中国籍、文献 50 参照
87	2012 0312	1991～ 2011	東邦大学・医学部	准教授・医師 (52)	医学	捏造など	論旨退職、捏造など 172 論文と認定 (日本麻酔科学会)、文献 51 参照
88	2012 0315	2001～ 2012	京都府立医科大学・循環器・腎臓内科	教授 (55)	医学	不正疑惑	3 論文自主撤回→再調査を要請 (学会)→辞職→再調査 (大学)、文献 52 参照
89	2012 0329	2000	大分大学・医学部	元講師 (40 代)、教授 (59)、講師	医学	捏造、データ流用	元講師：医学博士号の取り消し、教授は対象外、調査継続、文献 53 参照
90	2012 0405	2003～	東京大学・分子細胞生物学研究所	教授 (50 代)	生物学	捏造疑惑	撤回 1 論文、疑惑 24 論文、引責辞任、文献 54 参照
91	2012 0803	2000～ 2011	椙山女学園大学・現代マネジメント学部	教授 (58)	経済学	盗用など (6 論文 123 カ所)	停職 6 カ月 + 停職 2 カ月 (追加処分)、文献 55 参照
92	2012 0906	2008	熊本大学・大学院・医学薬学研究部	准教授ら	医学	研究不正 (疑惑)	教授選考の候補を辞退、論文撤回、調査委員会は設置されず、文献 56 参照
93	2012 0906	2010	早稲田大・人間科学学術院	教授 (47)	教育学	盗用 (引用文献の出典示さず)	報告書を修正 (HP から削除)、訓戒、文献 57 参照

94	2012 1001	2008	慶応大学・大学 院	大学院生 (当時)	社会科 学?	盗用	修士の学位の取り消し、 文献 58 参照
95	2012 1011	1999～ 2012	東京大学・医学 部・付属病院	特任研究 員 (48)	医学	捏造な ど	懲戒解雇、盗用・経歴詐 称・名義借用・名誉著者 も判明、文献 59 参照
96	2012 1013	2012	明治大学・経営 学部	教授 (61、 租税法学会 理事長)	法学	盗用(無 断転用)	厳重注意 (大学)、謝罪、 学会理事長辞任、雑誌回 収、文献 60 参照
97	2012 1207	2012	山形大学・医学 部	教員 (30 代)	医学	データ 偽造な ど	学会発表撤回、注意 (学 会)、処分検討 (大学)、 文献 61 参照
98	2013 0225	2001～ 2003	京都府立医科 大学・大学院・ 医学研究科	准教授 (54)	医学	捏造な どの疑 惑	訓告 (データ使い回しを 認定)、論文修正 (受理 済み)、文献 62 参照

(注) (1) 事例番号20と20*の事例は、同じ時期に同じ研究者の研究が異なる所属機関で問題になった事例で、表記の都合で分けた。(2) 本表では、明確に「研究不正なし(シロ認定)」の事例は除外してあるが、懲戒処分・論文撤回・特許申請取り下げ等があった場合は「不正(クロ認定)」の事例、それ以外は「未決着(グレー認定)」の事例と考え、掲載している。(3) マスコミ報道がなかったと思われる事例は、番号36、48、53、57、82、94の6事例である。

■